

「気づき考え方実行する」を
教育活動の機能として



青少年赤十字福島県指導者協議会

今年度より青少年赤十字
島県指導者協議会の会長を務
めさせていただいております
福島市立福島第一小学校長の
耕田祐子でございます。どう
ぞよろしくお願ひいたします。
青少年赤十字と私の出会い
は、今から二十年ほど前、福
島市立蓬萊東小学校が青少年
赤十字学校公開の指定校とな
り、参加させていただいたこ
とに始まります。その後も三
年間にわたり、各地区の学校
公開に参加させていただきま
した。

力観に基づく、児童生徒主体の授業のあり方が問われていた時期でした。いずれの学校においても、学習指導要領の趣旨を生かしながら、JRCの実践目標「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」を達成するための態度目標「気づき、考え、実行する」を、学校の教育活動全体に機能させた取組が公開されていました。

特に、特別活動はもとより各教科の授業において、導入における児童生徒の「気づき」を大切にする教師の働きかけの工夫や、友達の考えを生かしながら自分の「考え」を深める活動を取り入れた展開の

あり方、終末において、これから自分はどうあればよいか、どのように「実行する」かを発表しあい、まとめていく授業が提案されていました。

さらには、生徒会活動や児童会活動における集会活動を公開し、現在の学校生活の現状から課題に「気づき」、よりよい学校生活のために何をするべきか「考え方」、いつ、誰が、どのように「実行する」かを小集団や全校生で協議し、今後の生徒会活動や児童会活動の見通しを持つといった活動が展開されていました。

あり方、終末において、これから自分がどうあればよいか、どのように「実行する」かを発表しあい、まとめていく授業が提案されていました。

求められております。学校教育においては、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確に捉え、社会に開かれた教育課程のもと、どのように学ぶかが問われています。「気づき、考え、実行する」というJR Cの態度目標は、次期学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」にも通じるものと捉えております。

昨年度の白河市立信夫第二小学校及び大信中学校の学校公開においても、次期学習指導要領を見据え、JRCの実践目標を達成するための態度目標を機能させた授業が公開されました。

取組が児童生徒の現在、そして将来にわたる「生きる力」の育成に寄与していることは、誠に意義深く、取り組んでこられた学校関係者はもとより、日赤福島県支部、賛助奉仕団の御支援の賜物と深く敬意を表するものであります。

これからも、JRCの考え方を教育活動に機能させながら、児童生徒に生きる力をはぐくみ、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材として成長することができるよう指導者協議会の活動に鋭意取り組んで参りたいと思います。

青少年赤十字指導者協議会の皆様をはじめ、各学校の先生方におかれましては、今後とも御支援御協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。

平成三十年度青少年赤十字 福島県指導者協議会総会開催

五月十日(木)日本赤十字社
福島県支部において福島県教
育委員会教育長鈴木淳一様代
理義務教育課主幹板橋竜男
様、福島県青少年赤十字賛助

奉仕団委員長藤田伸朔様のご来賓と県内各地区の会長が出席され指導者協議会総会が開催されました。会議では、前年度の事業・会計報告、活動



編集・発行

青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL 024(545)7008

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your rescue.

の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議されすべて承認されました。

今年度も更なる青少年赤十字活動の充実を目標に、学校公開、指導者講習会、一〇〇文字提案など児童・生徒が生き生きと活動することが出来る環境を整えていくことが確認されました。

平成三十年度の 主な行事(十月以降)

- 青少年赤十字指導者協議会
第二回会長会

| | |
|------------|-----------------|
| 期日 | 十一月十五日(木) |
| 場所 | 日本赤十字社福島県 支部 |
| 受け入れ | 十一月十七日(土) |
| 期日 | 十一月二十二日(木) |
| 福島県高等学校青少年 | |

平成30年度 青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

| 役員名 | 氏名 | 学校名 |
|-----|-------|-------------|
| 会長 | 糸田 祐子 | 福島市立福島第一小学校 |
| 副会長 | 渡部 学 | 三島町立三島小学校 |
| 副会長 | 吉内 次夫 | 相馬市立日立木小学校 |
| 副会長 | 吉田 強栄 | 福島県立福島東高等学校 |
| 監事 | 菅野 敏彦 | 二本松市立大平小学校 |
| 監事 | 服部 秀夫 | 猪苗代町立緑小学校 |
| 監事 | 白石 文夫 | 福島県立郡山高等学校 |

- | 詩・
彰式 | 期日 | 場所 |
|----------------------|---------|--------------|
| 十二月二十五日(火) | 日赤福島県支部 | 青少年赤十字・スタディセ |
| 三月二十二日(金) 二十六日(火) | ンタ- | 期日 |

年赤十字連絡協議会
秋季総会参加等

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長 藤田伸朔先生



指導理念のすばらしさ

全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会会長

藤田
伸韻

青少年の
赤十字の
貴重な会
報の紙面
に投稿の
機会をいただき感謝いたしま
す。青少年赤十字賛助奉仕団
についてご理解いただくため
に、成り立ちと組織と活動に
ついてお話しします。

かつて教員として活躍して
いたころ（ええ、私にもそん
な時代があったのです）青少
年赤十字加盟校として、奉仕
活動や一円玉募金、トレセン
など子供たちと向き合ったこ
とを忘れることができません。

「指導理念のすばらしさ」と
言いましたが、発足当初から
あつたものではなく、赤十字
の精神を指導者が様々な指導
体験の中から生み出してきた
指導上の考え方だということ。
ここがすばらしいと思うので
す。（是非、本社発行「青少
年赤十字指導者手引き」を参

この度、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長の藤田伸一が、朝日新聞社主催の「第2回全国青少年奉仕大賞」で、助成金5万円を受取った。同賞は、青少年奉仕活動に貢献した者を表彰するもので、福島県内では、これまでに、助成金5万円を受取った者は、1人だけだ。

的に会の運営に取り組まれた
した。また、多趣味で赤十字
活動以外でも様々なことに挑
戦している藤田先生の今後の
益々のご活躍をお祈り申し上
げます。

照くください)
指導理念がすばらしくても、
かつての私がそうであつたよ
うに、実践する側に気づきや
行動しようとする主体性がな
くては始まりません。そのた
めに、賛助奉仕団としてお手
伝いできることがありそうに
思えるのです。先輩としての
振る舞いに気を配りながら。

の方の参加も見られ、七百名を超える団員がおります。青少年赤十字賛助奉仕団は全国四十七都道府県に組織され、青少年赤十字の普及発展のためにどのような協力奉仕ができるのか、情報交換や課題の共有を図っています。その中でとても大切にしていることは、「指導者協議会と連携を図つて」このことにつき

よろしくお願ひします。

登録式効果

いわき市立平第一小学校 校長 伊達多津也



福島県支部の方から、本校が、県内で初めて少年赤十字団を結成した学校ということを、教えていただきました。学校沿革によると、団結成が大正十二年五月であり、青少年赤十字のはじまりが大正十一年赤十字のことから、先駆けたことが分かりました。

しかし、本校のJRCの活動は、JRC環境委員会といふ委員会活動として日常的に取り組んでいるものの、子ど

も達や教職員の活動と意識は低迷していたのが現状でした。

そのため、まずは、意識を高めるために、登録式を行うことにより、JRCの意味を全校生で確認することとし

て、昨年度から準備をして、今年度、全校集会で登録式を実施することができました。子ども達と教職員にとって、手探りのものでしたが、県支部の皆様のご助言をいただき、担当(教職三年目)がよ

く頑張つてくれたことも大きな成果でした。

登録式を終えた子ども達の感想です。

く頑張つてくれたことも大きな成果でした。

平成三十年度

青少年赤十字指導者講習会

コミュニケーションの大切さを実感

青少年赤十字が掲げる三つの実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実現を図るため、日常生活で児童生徒一人ひとりの価値観を高める指導者の育成を図ることと青少年赤十字活動の振興充実を図ることを目的に、八月八日(水)~十日(金)の二泊三日、次の日程で郡山市青年会館で開催されました。参加者は、幼稚園一、小学校三十二、中学校十四、高校三の五〇名となりました。

受付から指示のない生活、V S(ボランタリーサービス)や先見といった特徴あるプログラム、初めての先生にいるものと合致しているのです。登録式を行ったことにより、子ども達の「あれ」この言葉は、JRCでめざして動けることをめざしています。子ども達の「あれ」の感性を磨き、自らが主体的に動けることをめざしているのです。登録式を行ったことにより、「自分たちで何ができるのか」と考えることがあります。グループの仲間と力を合わせてフィールドワークを体験し、最終目標であるワークショップの完成に向けて自分自身と深く向き合つた三日間となりました。

青少年赤十字への理解を深めるとともに、児童生徒の実践活動に生かしていくことが出来ればと思います。

主な内容と講師

講話

「赤十字と青少年赤十字」
学校法人松韻学園福島高等学校

講話

「先見・V Sについて」
賛助奉仕団 浜津 昌宏

講話

「ワークショップについて」
白河市立信夫第一小学校

防災教育演習

「自分だったらどうする」
福島成蹊高等学校

木村 真一

講話

「青少年赤十字と学校教育」
福島大学総合教育研究センター准教授 鈴木 智美

実践事例発表

西会津町立西会津小学校
校長 岡崎 秀明

研修主任 生江 和枝
西会津町立西会津中学校 校長 五十嵐正彦

研修主任 佐瀬 裕子
日赤福島県支部 校長 佐藤 敦子

「ハイゼックス炊飯」「応急手当」
久保 芳宏

実技

「フイールドワーク」

「演習ワークショップ」

「JRC活動をどのように学校教育に生かすか」

各班のHR担当から
各HR担当

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

木村 真一

福島の子どもたちのため
に、少しでも力になることが
出来れば最高ですね。思いや
りのある福島県人のために、
輝かしい福島の子どもたちの
心を育てていくために、寄与
していきましょう。

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

浜津 昌弘

佐藤 敦子

久保 芳宏

木村 真一

鈴木 智美

いふと感じた。
また講話だけでなく、
フィールドワークなどの様々
な活動から、自分達で気づき、
考え、実行する仕掛けが多く
あり、生徒指導の三機能が育
まれ楽しく活動が出来た。



最後に、消極的であつた私がいろいろな校種の先生方と出会い、気づかされた実りある三日間でした。この大切な経験を子供たちにも気づきさせ、実行させるような手立てを仕組み、生きる力を育む生徒を育てていきたいと考えている。

キーワードがあり特に生きる力を育むことにもつながる「主体的・対話的で深い学びを育む力が叫ばれている」という話があり、これらは青少年年赤十字が目指すものと似ていると感じた。

二学年に所属しており『職場体験』を行つてゐる。研修の前に企業から直接「学校は職場体験でのお願ひはあるが、それが営業などに反映されない」ことを言われたことを考え、教師主導ではなく、あくまで生徒が主導で、自ら気づき、考え、行動できる仕組みを考えた。まずはよい職場とは何なのか考えさせ、職場体験終了後に企業のよいところをまとめ、ポスターセッション

「教師が変われば、子供が変わる」

西郷村立羽太小学校 佐藤あゆみ

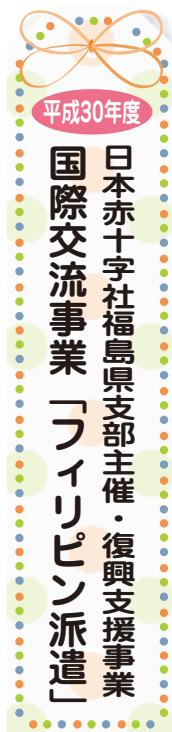
研修が始まるまで、自分はこの研修で何を学べばいいのか、正直はつきりしない状態で参加していました。JRCの活動も募金活動やボランティア活動のイメージが強く、具体的にどんな活動をしているのかどんな活動をしていけばいいのか不明瞭なままでいたことに、この研修に参

減したりすることであり、思いやりややさしさの気持ちがあれば、人道的な行いは誰でも実践できる。どこかで分かつていたことであつたけれど、自分は果たして人道的な行いが本当に出来ているのだろうか、と少し不安になりました。赤十字の活動の戦場での人道的支援はもちろん難し

な中で今回の研修の中で実際に先見ボードを見ながら活動することや、ボランタリーサービスの活動に自分で取り組むことで、少しのしかけをすることにより、子供たちは自分で動くことができるのではないか、今までせつからくの子供が気付く場面をうばつてしまっていたのではないか、と考えるようになりました。最初から教師がすべて教えてくれると分かつていれば、当然子供はそれを待つようになります。しかし、自分で考え



青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の具体的事業として、県内の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣し、同国青少年赤十字メンバーとの交流研修を通じて、国際性豊かな青少年育成とともに、本県青少年赤十字活動のより一層の推進



で、子供は考えなければならぬ必要感を持たせることで、子供は考へなければならぬと思はるはずです。そのことを自分が三日間を通して実感することができたことは、



でした。きつと目の前の子供も変えることができるのだと感じました。まずは一学期、研修を通して学んだことを取り入れて子供たちと一緒に活動していくこうと思います。「教師が変われば、子供が変わる」私の合い言葉になりました。

師である自分が変わることで、きつと目の前の子供も変えることができるのだと感じました。まずは一学期、研修を通して学んだことを取り入れて子供たちと一緒に活動していくこうと思います。「教師が変われば、子供が変わる」私の合い言葉になりました。

この研修での大きな学びとなりました。

三日目の閉校式の中で、講

師の先生に、「表情が変わりましたね」と言って頂きました。最初は何を学べばよいか迷っていた私も、この研修を通して少し変わることができたのだと思います。そして教

師である自分が変わることで、きつと目の前の子供も変えることができるのだと感じました。まずは一学期、研修を通して学んだことを取り入れて子供たちと一緒に活動していくこうと思います。「教師が変われば、子供が変わる」私の合い言葉になりました。

| 月 日 | 内 容 |
|----------|--|
| 8月12日(日) | 移動 |
| 8月13日(月) | フィリピン赤十字本社訪問（1円玉募金贈与）ケソン支部訪問 |
| 8月14日(火) | セント・サンタルチア高校訪問、ソルトパヤタス訪問 |
| 8月15日(水) | サンギレルモ教会見学、バタアン支部訪問、ユースメンバーとの交流会、バタアン公立高校訪問、ベニンラ大学訪問 |
| 8月16日(木) | サマット山戦争資料館見学、ゼロポイント、フレンドシップタワー見学、バタアン原発見学 |
| 8月17日(金) | ラスピニヤス支部訪問、リサイクル施設見学、ユースメンバーと昼食会、モールオブアジア見学、お別れ夕食会 |
| 8月18日(土) | 移動 |

| 参加者 | | |
|-------|-------------|----|
| 齋藤 優真 | 郡山北工業高等学校 | 3年 |
| 佐藤 涼香 | 福島成蹊高等学校 | 3年 |
| 内儀 雪野 | 白河旭高等学校 | 3年 |
| 星 南充 | 会津学鳳高等学校 | 3年 |
| 原 大河 | 松韻学園福島高等学校 | 2年 |
| 小泉 胡春 | いわき総合高等学校 | 1年 |
| 金澤 直人 | 白河実業高等学校教諭 | |
| 八島 梢 | 平支援学校教諭 | |
| 支部 職員 | 松本 琢也 岩崎 瞳子 | |

フィリピン派遣に参加して

白河実業高等学校 教諭 金澤 直人

私たち青少年赤十字フイリピン派遣団十名は、八月十二日(日)～十九日(日)までの八日間の日程で研修を実施しました。本来ならば、十八日までの日程でしたが、マニラ空港での航空機事故の影響で航空機ダイヤに大幅な乱れが生じ、成田空港到着が十八日深夜となってしまい、急遽次の日にバス移動となつたためです。私たちにとって、最も印象深い経験となつてしまつたといつても過言ではありませんでした。

事前研修では派遣における意義や目的について学び、交流内容の検討を行いました。しかし、今回の派遣メンバーの半数が三年生ということもあり、思うよう集まることができず、準備がほとんどできない状況でした。何より生徒自身が不安に思っていたことで不安の中で現地に赴く

と、十一日の大雨による洪水被害の影響でケソン市の学校が休校となつていました。フィリピン赤十字本社を訪問した際にも、ボランティアの方々が洪水被害の対応で東奔西走されていた様子が印象的で、私たちの訪問はむしろ邪魔なのではないかとも思うほどでした。

懸念されていた交流学校訪問も、最終的には三校訪問することができました。そこで、学校を挙げての熱烈な歓迎ぶりに、私たちも面食らうほどでした。





でした。そのような中で、事前研修で準備していた交流会の出し物についても、回数を重ねるごとに創意工夫と洗練さを増し、最終的には私たちが満足のできるものになりました。それはまさに、毎日の「振り返り」の賜物でした。

特に、名前を漢字で当て字したもの毛筆で書くパフォーマンスが、評判がよかつた様子でした。

さらに、サマット山やゼロポイントの見学では、バアタマンスが、評判がよかつた様子でした。

一方、サマット山戦争資料館では、ユースメンバーから説明を受けることができました。立場は違えども、同じ第二次世界大戦のできごとです。それは、逆の立場に立つたとき、「はたして私たちは、同じように伝えることができるだろうか」と反省をした瞬間でもありました。知らなければ「伝える」ことはできません。「伝える」ために、「知る」こと。メンバ一人ひとりが、心に刻むことができました。

その他、パヤタス地区やバランガマーケット、ラスピニヤス地区のリサイクル施設など、多くの場所と施設を見学しました。それぞの場所でいろいろなことを感じ、そして学ぶことができまし

た。とても一言で言い表すことができません。

ひいて一つだけ挙げるとすれば、その場所で生活をしてがら生の交流を図ることができました。そこで垣間見たメンバー達の笑顔が、今でも印象に残っています。

一方、サマット山戦争資料館では、ユースメンバーから説明を受けることができました。立場は違えども、同じ第二次世界大戦のできごとです。それは、逆の立場に立つたとき、「はたして私たちは、同じように伝えることができるだろうか」と反省をした瞬間でもありました。知らなければ「伝える」ことはできません。「伝える」ために、「知る」こと。メンバ一人ひとりが、心に刻むことができました。

派遣メンバーは派遣当初、日本とフィリピンの文化の違いに強い戸惑いを隠せない様子でした。しかし、しがいに自身のできる範囲で主体的にアプローチできるようになっていきました。それは、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」ことができた成果だと思います。なお事後研修にて、今回の派遣がきっかけとなって、自分自身がやりたいことに気づき、実現するためには急遽進路を変更した、という話を聞くことができました。正直、とても頼もしく思ふとともに、これほどまでに大きな影響を与える学びの



フィリピン派遣で考えたこと

郡山北工業高等学校 三年 齋藤 優真

機会なのかと驚きを隠せませんでした。

今回のフィリピン派遣での貴重な経験は、今まで積み重ねてきた私たち自身の生き方を振り返るきっかけとなりました。

た。とても一言で言い表すことができません。

ひいて一つだけ挙げるとすれば、その場所で生活をしている方々の笑顔です。フィリピンは、私たちの想像を遙かに超えた貧富の差がある国です。しかし、どの場所でもマーケットが建ち並び、多くの子どもたちが楽しそうに遊んでいました。そこに足りないもの、労働の機会と生活に困らぬ程度のお金、そして夢を叶えるためチャンス、この三つのかも知れないと感じました。

派遣メンバーは派遣当初、日本とフィリピンの文化の違いに強い戸惑いを隠せない様子でした。しかし、しがいに自身のできる範囲で主体的にアプローチできるようになっていきました。それは、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」ことができた成果だと思います。なお事後研修にて、今回の派遣がきっかけとなって、自分自身がやりたいことに気づき、実現するためには急遽進路を変更した、という話を聞くことができました。正直、とても頼もしく思ふとともに、これほどまでに大きな影響を与える学びの

機会を与えて下さった日本赤十字社福島県支部の皆様、そして関わって下さったすべての方々に心から感謝申し上げます。

した。この事業への参加の機会を与えて下さった日本赤十字社福島県支部の皆様、そして関わって下さったすべての方々に心から感謝申し上げます。

マット山戦争資料館へに訪れました。この資料館ではフィリピンを舞台とし、日本軍、アメリカ軍が戦った悲惨な様子を知ることができました。

日本軍やアメリカ軍がどこを拠点とし戦争を繰り広げていたのかが理解できる大規模な模型なども、展示されていました。戦争は私からしてみれば遠い過去の話ですが、まだ百年も経過していない新しい歴史でもあります。日本が行つた過ち、それは許されることがあります。そう知つているから私は心にとれない棘を感じました。そして、な

しかし、そのどの活動よりも私が衝撃を受けたことは最も私が衝撃を受けたことは子ども達が満面の笑みで笑いながら外で遊んでいたことです。端的に言えば日本にはない笑顔が溢れていました。近

年ネットワーク社会が急速な発展を遂げ、その最先端の先進国である日本。スマートフォンや家庭用ゲームが普及したせいか、公園で走り回つて遊ぶ子ども達をそれほど見なくなりました。それ故に、子ども達が満面の笑みを浮かべながら遊ぶその姿は印象強く目に焼き付いています。

四日目以降はバタアン州に移動し、五日目の研修で

「サ

マット山戦争資料館へに訪れました。この資料館ではフィリピンを舞台とし、日本軍、アメリカ軍が戦った悲惨な様子を知ることができました。

日本軍やアメリカ軍がどこを拠点とし戦争を繰り広げていたのかが理解できる大規模な模型なども、展示されていました。戦争は私からしてみれば遠い過去の話ですが、まだ百年も経過していない新しい歴史でもあります。日本が行つた過ち、それは許されることがあります。そう知つているから私は心にとれない棘を感じました。そして、な

により心が痛かったことがひとつあります。それはバタアンのユースメンバーが笑つて一つ一つ丁寧に教えてくれたことです。日本がフィリピンに犯した過去の非道な行いに引き換え、同じ日本人である私に優しく教えてくれたユースメンバーに対し、胸がいっぱいになりました。

フィリピン派遣は多くのことを考えさせられる研修でした。これから自分に何ができるのか。

三・一一の時、私は何も

できなかつた小学生でした。

七年以上の月日が経ち高校生に成長しましたが、今、フィリピンの現状をどうにかすることなど到底できず、再び悔しさをかみ締めるばかりです。これから未来、自分がどうなるのかもまだ分からぬことだらけです。しかし、あの場所で無邪気に笑つていた子ども達の未来を作れるようになりたいと、そんな気持ちが今の自分にはあります。最後にこの研修を糧とし、これからを生活していくたいと思います。



あとがき



例年にない猛暑の中、今年もトレセンが各地区で実施されました。参加したメンバーは指示されない生活や先見な

ど実際に体験する中で自分自身の生活を見直すきっかけになつたのではないでしょう。ご指導いただきました先輩方に感謝申し上げます。

（事務局）

平成30年度 トレーニング・センター一覧

| 地区 | 月日 | 会場 | 参加人数 | 主な内容 |
|-------|------------------|--------------|------|---------------------------------------|
| 県北 | 7月31日(火) | 福島第一小学校 | 40名 | AED講習会・ハイゼックス炊飯・交流タイム・フィールドワーク・振り返り |
| 県中 | 7月31日(火)～8月1日(水) | 郡山自然の家 | 87名 | 講話「赤十字について」・救急法・フィールドワーク・ナイトハイク |
| 県南 | 7月25日(水) | 表郷小学校 | 38名 | 救急法(心肺蘇生法・AED)・非常作り |
| 北会津 | 7月31日(火) | 国立磐梯青少年交流の家 | 54名 | 講話「赤十字の活動とJRC活動について」救命救急講習・フィールドワーク |
| 耶麻 | 8月1日(水) | 福島県会津自然の家 | 62名 | 火起こし体験・野外炊飯・救急救命講習 |
| 両沼 | 7月27日(金) | 福島県会津自然の家 | 91名 | 講話「JRC活動について」・AED講習会・スコアオリエンテーリング |
| いわき | 8月3日(金) | 菊田小学校 | 43名 | 講話「JRC活動について」・防災教育プログラム |
| 高校県 | 7月12日(木)～14日(土) | 国立磐梯青少年交流の家 | 63名 | 赤十字概論・JRCのリーダー・人道法・救急法・国際理解・ボランティア・防災 |
| 県北 | 8月3日(金) | いわき市 | 16名 | コミュニケーション福島・被災地視察(いわき市薄磯海岸) |
| 高校県北 | 8月7日(火) | 日赤福島県支部 | 29名 | 100文字提案・防災プロフラム・救急法 |
| 高校県南 | 8月2日(木) | 相馬市 | 23名 | 被災地視察(相馬市・新地町) |
| | 9月1日(土)・2日(日) | フォレストパークあだたら | 26名 | 防災キャンプ(テント設営、仮設トイレ設営など)・避難所を運営して(講話) |
| 高校会津 | 8月6日(月) | 県立葵高等学校 | 15名 | 避難所運営ゲーム「HUG」・図上訓練「DIG」 |
| 高松いわき | 8月1日(水) | いわき市生涯学習プラザ | 34名 | 避難所運営ゲーム「HUG」・身近なものを利用した応急手当 |